

静岡県中部に分布する枕状溶岩 (地学散歩(71))

著者	井出 志津夫, 佐藤 弘幸
雑誌名	静岡地学
巻	91
ページ	i-iii
発行年	2005-06-12
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00024990

静岡県中部に分布する枕状溶岩

井出志津夫*・佐藤弘幸**

地学散歩(71)

静岡県の枕状溶岩といえば大崩海岸が有名である。その理由としては、規模が大きい、場所がわかりやすい、誰でも行ける、波や潮風で洗われるため1年中草木の侵略を受けない、さらには、絶壁と富士山という最高のシチュエーションであることなどが挙げられ、3拍子も4拍子もそろった露頭である。

大崩海岸に匹敵するほどのものではないが、高草山周辺をはじめとして県内各地に枕状溶岩が散在することは各種文献に記載されている。中部支部ではそれらの場所の一つ一つを丹念に歩き、確認し、GEOデータとして記録する調査を進めている。このような地道な調査の中で新たな露頭を見つけることができればとも願っている。

図1は、安倍川の支流である西河内川上流にある最後の集落・横沢を通り井川へ通じる県道60号線沿いにある。横沢からは2kmほど上った所である。道の高さからはかなり上の方にあるので、車内からの視線ではほとんど見逃してしまう位置にある。斜面の崩れを防ぐ防護壁を覆うように枕状溶岩の露頭が見られる。写真で見るとおり、今まさに海中に放出されつつある枕状溶岩、その瞬間を切り取ったような存在は、見る者を圧倒せずにはおかない。防護壁を枕状溶岩の下側に入り込ませてくれるのは粋な計らいといえる。

図2は、小坂の集落を抜けた山中にある。小坂は静岡市西部長田地区にある。そこは焼津から静岡へのかつての山越えのコースであり、峠は日本坂と呼ばれている。そのコースから外れて、今では満観峰へのハイキングコースとなっている方に入ると、向かいに社を伴って不動の滝が白い糸を引いている。社の裏にも枕状溶岩の露頭はあるが、やや不明瞭である。それよりも、さらに足をのぼして2度ほど折り返したすぐの所にこの露頭がある。図2を選んだのは図1と異なり、小さな枕状溶岩が2つ並んでいるところが珍しいと思ったからである。

図3は、高草山西方の坂本地区の林道にある。ここでは新鮮な岩石が露出し、枕状溶岩の表面が観察できる。縦方向に波打つしわや縄状のしわが明瞭である。

同じこの地域では、枕状溶岩が頁岩と互層している。林叟禅院上の林道では、シート状溶岩から枕状溶岩に変化し、その上に頁岩が重なる図4のような様子を観察できる。頁岩は細かく割れ生物擾乱作用がどの程度かは読みとれない。ただ全体の砂岩層の挟みは少なく、泥岩層が卓越することから、堆積環境として深海底が推定される。また、頻りに泥岩層を含むことから、噴火中心からややはずれた場所であったとも推定される。今後、さらに詳細な堆積環境や噴火の形態が復元できれば面白いと思う。

(写真提供 長島昭・井出志津夫・佐藤弘幸)

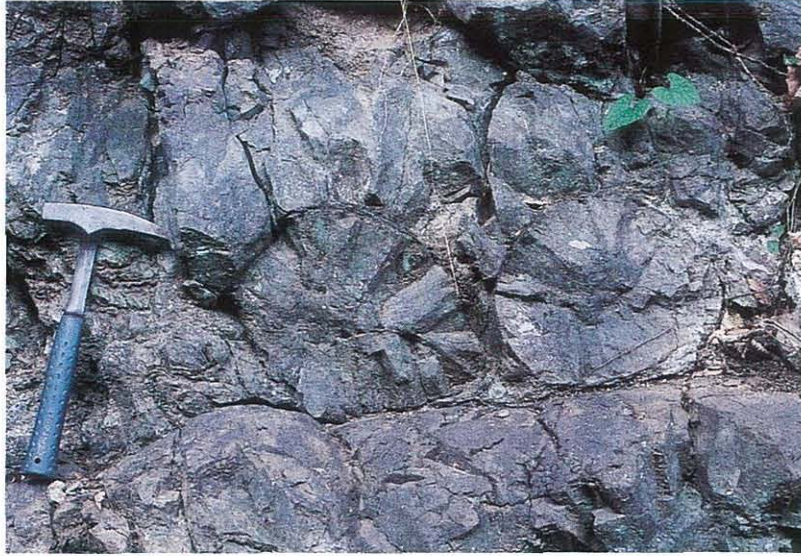
*静岡市立東源台小学校

**静岡聖光学院中・高等学校



1. 横沢の枕状溶岩.

(ii)



2. 小坂の枕状溶岩.



3. 坂本の枕状溶岩.



4. 坂本の枕状溶岩と頁岩.